

Takashima Toujyu Kai

会報

No. 22

2020.1.22

高島藤樹会

(題字は、竹脇雲卿先生によるものです)

発行

NPO法人 高島藤樹会

〒520-1224

滋賀県高島市安曇川町上小川 225-1

藤樹書院・良知館内

電話・FAX 0740 (32) 4156

第十回藤樹奉賛俳句大会を終えて

実行委員会事務局 山方 曙



第十回藤樹奉

賛俳句大会が、

十一月二十三日

に終了しました。

この大会は、今

から十二年前に「藤樹先生生誕四百年の記念行事」の一つとして高島市の計画で行われました。

この大会に高島市文化協会の文芸部門からも参加することになりました。その頃、俳句部門においても旧高島郡内の俳句関係者が一堂に集まり、俳句の勉強会を開きたいという空気がありました。安曇川町の駒井で太さんの音頭で「藤樹先生生誕四百年記念事業の俳句大会」が盛大に行われました。

第三回からは、大会名を「藤樹先生奉賛俳句大会」と変更して現在に至っております。現在では、小学生・



中学生の皆さんにも情操教育の一環として参加してもらい、参加範囲も一段と広がってまいりました。俳句という文芸に参

加している私は、ほぼ毎月一度は藤樹神社に参拝し、藤樹書院へ吟行しております。荘厳な藤樹神社と、掃き清められた第目の通った藤樹書院のお庭を見て書院に上がります。美しいお花が活けられています。今回の句集の中に次の俳句があります。清めたる藤樹書院に萩こぼる

安曇川町 馬場恵美子
萩の花の咲く九月二十五日、藤樹祭が藤樹書院で行われます。当番の方が毎日毎日、書院のお庭を掃き、箒目を立てて来訪者を迎えてくれます。

藤樹書院をはじめ、地域ごとに特色のある風情を感じさせてくれます。楳の木紅葉蒼天賜はりし

今津町 貫野 浩

錦秋や徳本堂に翁偲ぶ

安曇川町 平井 正昭

小鳥来て書院の玻璃の影速し

今津町 駒野 牧堂

藤樹社の藤樹ゆかりの楳もみぢ

新旭町 山方 曙

奉賛俳句集うよろこび冬日和

今津町 井川 芳子

大洲より良縁運ふ藤の香よ

安曇川町 梅村 頼子

御書院の声のとぎれぬ冬泉

長浜市 熊谷 謙一

小春日や聖の里に親しめり

新旭町 栗原 幾恵

松手入れ済みし書院の藁かな

今津町 駒野由美子

神木の間に間に紅葉藤樹里

新旭町 佐々木節子

小鳥来る聖人の里の立志祭

安曇川町 柴原 忍

教え新た藤樹の里の冬日和

新旭町 八田 吉江

水澄むや五事を正すと記す茶碗

新旭町 服部 宏子

冬日和藤樹の郷を包みをし

安曇川町 馬場恵美子

宮の秋生涯学ぶ仲間いて

新旭町 馬場喜久子

書院への家並み整ひ冬ぬくし

新旭町 松田 文江

聖人を語り継ぐなり苑小春

新旭町 松山 八重

御書院の鯉の小川の水澄める

新旭町 山方美智子



列挙しました俳句は、俳句大会当日に藤樹先生に奉納したものです。藤樹先生の脚下で俳句の勉強を続けていきたく思っています。

藤樹俳句会(勉強会)のご案内

日時…奇数月 第三水曜日

午後一時三十分より

場所…中江藤樹記念館

季節…当季雑詠

出句数…五句(持込句可)

ひじりの声 上田藤市郎

藤樹先生の書物や論語などを学ぶ際に気をつけたいのは、抽象的な漢語に感動して納得してしまうことである。先生も戒めておられるように、論語の中の言葉で言えば「近思」、つまり、身近なことを考えることが大切だということ。日々の世情を眺めれば、現実の社会は矛盾に満ち溢れている。藤樹先生の時代も、將軍や大臣は日夜美酒美食を賞味し、庶民は塗炭の苦しみに喘いでいた。「大學」に言う「治国」とは、洋の東西を問わず、熊沢蕃山先生が全力を注いだ「治水」である。我が国の連年の風水害を治めることができずにいて、これを政治と言えようか。二宮尊徳先生の業績が語るように防災こそが政治の要諦ではないのか。毎年、想定外のこととして責任を転嫁していくのか。今なお、立ち直れずにいる被災者は、オリンピックに向けての多大な歳出をどう見ているのだろうか。

少額の年金で暮らす人々、車上生活を続ける人々、いわゆる「子ども食堂」で空腹を満たす児童たちなど、政治が解決すべき課題は山積している。藤樹先生もまた古今の漢籍は、眼前の現実を直視して行動する指針とすべきものと考えておられたであろう。

中江藤樹座像の制作および販売

高島市で誕生され、誰もが生き方の手本にできる立派な教えを示された藤樹先生、ならびに高島市民が心の支えにしてきたその教えが、昨今、軽視されているような気がします。

そこで、今般、NPO法人高島藤樹会は、藤樹先生とその教えを再顕彰するため、先生の座像を制作し、販売させていただきます。ことによりいたしました。

玄関や居間、床の間等に先生座像を安置していただき、先生を身近に感じ、その教えを日々、心の支えにしていただいたり、御宅を訪問された皆様に、座像を交え、素晴らしい先生の生き方や教えをお話していただける機会になると思うからです。

ひいては、高島藤樹会は、そのことをとおして、高島市民は勿論のこと、全国の皆様に藤樹先生とその教えが広く顕彰できるものと考えております。

さて、次に、藤樹先生座像の仕様と販売要領について、説明させていただきます。

中江藤樹座像の仕様

一 製品材質
・陶製（信楽焼）

二 原型制作者
・高島市在住の元中学校美術科教師

三 製品製作者
・信楽焼三平陶房 富岡 正義氏

四 製品サイズ（ミリメートル）
・高さ一九二
・幅一二九
・奥行き一三三

五 付属品
・台座板（楠無垢材）
・収納箱（紙箱）

六 販売価格（一体）*消費税込み
・高島藤樹会会員 一〇、〇〇〇円
・一般 一二、〇〇〇円

七 備考

・信楽で、長年にわたり人物等の作品を手掛けてこられた製作者が、一体一体丁寧に手作りされる物であり、釉薬の吹きつけ量や窯内部の微妙な温度差等により、二つと無い趣ある個体が焼成されますのでご了承ください。

販売要領

一 ご購入いただける方は、同封の申し込み用紙により締切期日までにお申し込みください。

◇第一次締切 令和二年一月三十一日
◇第二次締切 令和二年三月三十一日

二 一体一体手作業で仕上げていただきますのでお届けまでに2か月程度要します。出来上がり次第、高島市内の方にはご自宅までお届けします。市外の方には、送料着払いで発送させていただきます。

*第一次申込み締切分の製品については、遅くとも令和二年三月三十一日迄には、お届けします。

【担当 思想普及委員会】



座像（斜め前から）



座像（正面から）

藤樹人間学塾 百回記念

「中江藤樹心のセミナー」

塾長 田中 清行

令和元年十二月七日午後、新旭公民館で藤樹人間学塾百回記念、「中江藤樹・心のセミナー」を開催しました。高島市内外から五十余名が参加していただきました。

開会の挨拶で三田村副会長が高島藤樹会は知識を得るだけでなく実践を大切にしていると表明しました。最初の講演は「孔子の郷、曲阜と藤樹の里、高島」と題して私が話しました。孔子は中国の動乱期を生き抜いて思索し行動した。孔子は理想の社



会を実現するためには「礼」と「仁」が大切だと説きました。身分制度を認めたいうえでの人道主義です。孔子の死後、儒教は国教として歴代の王朝が踏襲して来ました。孔子の根本思想は、「修身・齐家・治国・平天下」で自らの徳によって政治を行おうとするものです。

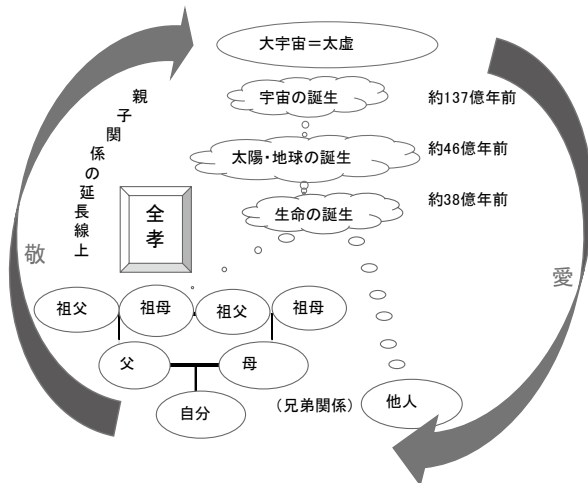
私は昨年孔子の郷、曲阜を訪問して来ましたので年間五百万人もの観光客を集める孔子廟等の遺跡群を写真で紹介しました。そして曲阜の人々が街を挙げて孔子を讃え、来訪者を歓迎している姿が膨大な人を集める原動力となっていると述べました。

次に藤樹の生涯を説明し藤樹も徳を最重要視している話をしました。藤樹の里、高島では、藤樹書院などの遺跡があり、そこで地元の人々が毎年儒式の祭典を行って先生の遺徳を大切にされていることは素晴らしいことです。高島藤樹会は、藤樹紙芝居を作って子供に教え、会報を作って会員サービスを行うなどの活動をしています。

さらに藤樹人間学塾では、先生の著書を読んで藤樹思想を学び、それを私たちの生活に生かす方法を考え実践するようにしています。藤樹の「孝」の思想は親孝行の「小孝」だけでなく、「全孝」といって大宇宙（天・太虚・神仏）と私たちは親子

関係の延長線上でつながっている。だから天を敬い、隣人を愛せば天が慈しんでくれるというような温かい教えです。

これを図で説明し、当会はこの素晴らしい思想を全国に広めようというビジョンを持っています。ただし理想を実現するためには、まず自分の行動を正していくことが大切で、皆さん一緒に始めましょうと述べました。



メイン講演は実践人の家理事長であるわが師、廣瀬童心先生です。先生は「現代に生きる藤樹学、森全一学」と題して全一学は孝につながる」と話されました。太虚に包まれて私たちがあ、良知がある、仏性がある、

る、霊性がある。藤樹先生は、人は誰でもよい心を持っている、人はその心を磨き人間らしく、楽しく生きるためには、日々の生活の中で五事（貌・言・視・聴・思）を正すことが大切と言われている。個人がバラバラではいけない。人間同士はつながっていないといけないと納豆を使って教えていただきました。

生活の中で立腰することは自分の心身の中心軸を立てることだと実践指導もいただきました。

藤樹学・森全一学はいのちの根源（大宇宙）に生かされていることを自覚し、大宇宙への感謝の思想である。だから隣人を愛すべきだと、小道具を使ってユーモアあふれるお話をして会場を沸かせていただきました。



た。

皆さんから「藤樹先生の教えがよく分かって良かった。今日は来てよかった」というお声をいただき、主催者として本当に嬉しい限りです。

セミナー終了後、安曇川駅前のホテルに移動し、美味しい料理を食べ、お酒を酌み交わしながら談笑しました。

関係者の皆さん、ご来場の皆さん、たいへんありがとうございました。



藤樹人間学塾 今後の予定

二月一日(土) ◎三月七日(土)
四月五日(日) 五月九日(土)

■時間 十五時～十七時(原則)

■場所 安曇川公民館

◎印は塾終了後、別場所で開催あり

寄稿

『よえもん道場』

高島市青少年育成会議会長

平楽 康男

中江与右衛門さんの名前の通り、よえもんさんを学ぶ場として「よえもん道場」としています。

よえもん道場を実施する趣旨として「子どもたちが地域の自然や歴史を体験学習する機会のなかで、地域を知り、愛着を持ち誇れるものとする。また、宿泊体験などの活動を含め、異なった学年や年齢の集団生活における社会性を養う。」として、年間を通して計画を立てて行事を行っています。参加構成は小学四年生から六年生までとし、中学・高校生でリーダーとなる方、それと大人のサポーター、青少年育成会議の委員とで、年間八回の行事を行っています。

年度はじめには、中江藤樹先生についての史跡を訪ねて先生を知ります。

「子曰く、学びて時に之(これ)を習ふ。亦(また)説(よろこ)ばしからずや。朋(とも)有り、遠方より来たる。亦樂しからずや。人知らずして慍(うら)みず、亦君子ならずや。」

毎回、これを朗読しています。

今年は大洲市を訪ねる大きな行事があり、事前に一泊二日のキャンプをして、本番の三泊四日の大洲市訪問に備えました。

大洲市訪問は、八月十六日に出発しました。参加者は、小学生三十一名、中学生リーダー七名、市民会議委員四名、サポーター三名、保健師さん等行政九名の合計五十八名で、バス二台にて愛媛県大洲市の大洲青少年交流の家に到着しました。職員さんと共に入所式を行い、夕べのつどい、夕食の後、うちわ作りをして、一日目が過ぎました。

施設では、朝のつどい、夕べのつどいは毎日利用者全員が参加して行われます。

二日目の昼食は野外炊飯でカレーライスを作り、午後にはカヌーとクライミングをして楽しみました。

三日目には、大洲市の子どもたちと施設の体育館でゲーム等を通して和気あいあいと交流し、半日が過ぎました。午後は大洲市内で、藤樹先生が二十七歳に高島小川村へ帰るまで過ごされた生活感あふれる所を見て回りました。その後、大洲の人たちが藤樹先生を慕い敬う姿を形として残した碑や建物のすごさに、改めて中江藤樹先生の偉大さを知ることができました。

夕食の後、大洲での最後の夜、



大洲高校横の「至徳堂」(中江藤樹邸)の前で



大洲小学校の藤樹少年像の前で

楽しみにしていたキャンプファイヤー、各班それぞれ趣向をこらしたスタンプの発表と、楽しいひとときを過ごしました。

四日目は、朝食後に退所式があり、



「至徳堂」の中で

その後、帰路につきました。

子どもたちの様子はというと、一目で掃除の仕方がわからない、施設での食事はバイキングなので、自分の食べられる量がわからず、たくさん盛りつける、ティッシュを必要以上にたくさん取り出すなど、いろいろな課題が見えたが、三日目にもなると、それぞれが個々の活動の中でがんばっていることが、目に見えてわかってきました。特に各係の報告や発表の時、多くの人の前で話すことが出来たし、集団生活の中でのルールも理解できるようになってきたと思われました。

中学・高校生リーダーも良いお兄さん、お姉さんで、余裕を持って小学生に接する姿が見えたことは、ほ

ほえましく、たいへん喜ばしいことでした。

十月十九日には、藤樹先生の門徒の一人で中西又左衛門、即ち馬方又左衛門さんの行いを記した由来碑がある安井川交差点角へ行きました。彫られた内容を皆で読み、その後バスにて大津市和邇の榎宿跡へ向かいました。又左衛門さんの足跡をたどるつもりで歩いて新旭まで帰る予定でしたが、雨がきつかったこともあり、子どもたちの安全かつ健康を考え、やむなくバスで帰ってきました。帰着後、新旭公民館で藤樹紙芝居「馬方又左衛門」をリーダー（中学生）に読んでもらい、改めて馬方又左衛門さんの正直な心、他人を思いやる心を勉強しました。

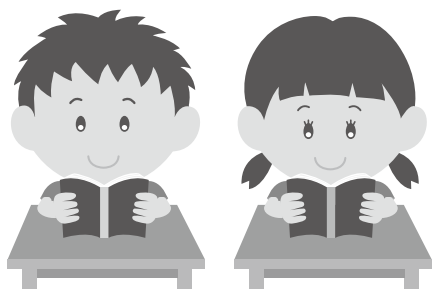


馬方又左衛門の石碑の前で



大津市和邇榎宿跡の碑の前で

与右衛門道場に参加された子どもたちも、これから地域のリーダーとして参加・活躍してくれることを願いたいと思います。



「藤樹紙芝居」の紹介⑮

『孟子とお母さん』

（解説）

藤樹先生は、伊予の国大洲から、小川村に戻って後は、先生を慕って集まってくる武士たちの教育に力を注ぐ一方、小川村はもとより、近隣の村々にも出向いて、村人にもよく分かる講話をされたことが伝えられています。

本紙芝居は、先生が女性教育のために書いたと伝えられる『鑑草』の中の話です。夫を戦で亡くした孟子の母は、孟子の教育に心を砕きました。一人息子の孟子を決して甘やかさず、厳しくも深い愛情をもって育てました。孟子は、この母の姿勢から、人間としての生き方を学びます。『この親ありて、この子あり』という言葉がありますが、孟母の真剣な教育姿勢を、今の子育てにも生かすことができるのではないかと思われる内容です。

▼参考文献

『鑑草』（関西大学 著・発行）

『中国服装史』（華 梅 著）

『孟子』（明治書院 発行）

『孟子』（中国の思想三 徳間書店 発行）

(紙芝居)

① このお話は、むかしの中国の学者『孟子』の子ども時代のお話です。

孟子は、今から、二千三百年位前活躍した有名な学者です。どのような子ども時代を過ごしたのでしょうか。

孟子「ああ、おもしろかったな。みんなと遊んで、お腹がすいた。早く家に帰ろう。」

近くの友達と遊び、お腹がすいたので、急いで家に帰ってきました。隣の家の近くまで来た時、いのししの肉を煮ているような、おいしそうなにおいがしました。おじさんとお婆さんが、何かの肉を煮ているのです。

孟子「おじさん、お婆さん。こんにちは。」

お婆さん「はい、こんにちは。孟ちゃん、速く走れるようになったね。」

孟子「はい。友達と練習しているから、速くなつたの。」

おじさんとお婆さんは、にっこり笑ってくれました。

「何の



肉だろう」と考えながら家まで走って帰りました。

② 家に帰った孟子は、さつそくお母さんに言いました。

孟子「お母さん、ただいま。今、隣の家の庭で、大きな鍋から、いのししの肉を煮ているようなおいし



いにおいがありましたよ。お客様でもあるのかな。大きな鍋のお肉は、どうするのだろう。」

お母さんは、からかい半分に冗談を言いました。

お母さん「お前にごちそうをするためですよ」

孟子「えつ、ほんとうなの。うれし

いな。大好きだから、待ち遠しいよ。」

お母さんは、孟子がとても喜びましたので、ドキッとして、「冗談だよ」と言えなくなりました。お母さんはたとえ冗談であっても、子どもにうそをついてしまったことを、反省しました。

お母さん「母親は、お腹にいる赤ちゃんにさえ、お腹をなでながら、やさしく声をかけるものなのに。私は何というばかな冗談を言ったのだろう。情けないことをしたわ。」

そこで、孟子には何も言わず、そつと隣の家に行き、いのししの煮物を、お願いして買いました。

お母さん「これですよ、ぼうや。今、いただきますよ。食べてごらん。」

孟子「ばんざい。おいしそうだ。お母さん、うれしいな。」

孟子は、飛び上がって喜びました。

お母さん「ぼうや。せっかくのごちそうだから、たくさん、おたべなさい。」

お母さんは、孟子にすすめて、うそをついたのではないことを、示しました。

③ 数年が過ぎました。孟子は成長し、すっかりしてきました。お母さんは、遠く離れた学問所に優れた先生がおられることを聞きました。そこで、その学問所で勉強させることにしました。

お母さん「これから、この先生の所で、しっかりと学問の修行をしなければ。母と別れるのはつらいと思います。修行が終わるまで、一心にがんばりなさいね。」

孟子「はい。お母さん、分かりました。お母さんも、お体を大切にしてください。」

お母さん「あなたは健康に気をつけて、学問に打ち込みなさい。分かりましたか。」



孟子「はい、分かりました。お約束します。一心にがんばります。お母さん、ではここで別れします。行ってまいります。」

お母さん「行ってらっしゃい。ここで、あなたを見送りますよ。母もがんばりますからね。」

孟子は、元氣よく学問所に入っていきました。

④ 孟子が学問所に行つてから、何年かが過ぎました。お母さんは、孟子の学費や生活費を送るため、一生懸命働きました。学問所で勉強するには、たくさんのお金がかかるからです。お母さんは、はた織り機で、美しい絹の布を織る仕事に励んでいました。

お母さん「息子は、毎日学問にがんばっていることでしょう。優れた先生に出会え、多くの学問仲間もで

て、学問に打ち込みなさい。分かりましたか。」



わね。母の私も、はた織りに精を出しますよ。」

お母さんのはた織りは、薄いのにつやがありました。織り柄も美しいので、人気がありました。しかし、一反（着物一枚分）の布を織り上げるのに、数か月かかることもありました。

⑤ そんなある日のことです。

孟子はお母さんが恋しくなり、会いたくて会いたくて、しんぼうできなくなりました。

孟子「お母さんに会いたいなあ。今頃、何をしておられるのだろう。お母さんに会いたい。今日は学問所が休みだぞ。先生にはないしょで、そつと出かけよう。お母さんに一目会って、戻ればいいのだ。」孟子は、だれにも言わずに、学問所を抜け出すことにしました。

孟子「よし、だれも見えていないぞ。今だ、行くぞ。」



また走りしました。とうとう、なつかしいわが家に着きました。

⑥ そつと、裏口から家の中に入りました。

孟子「あつ、お母さんだ。」

お母さんの後ろ姿が見えました。美しい布を一心に織っていました。孟子はうれしくなって、お母さんに声をかけました。

お母さん「えつ、まあ、私のかわいい息子ですか。間違えましたよ。すつかり大きくなったこと。背丈がずいぶん伸びたのね。急なこと

で、驚きましたよ。」

孟子「お母さん、会いたかったです。」何年ぶりに帰ってきたわが子は、見違えるほど大きくなっていました。お母さんも、孟子の目からも、ハラ

ハラと涙がこぼれ落ちました。お母さん「ところで、お前は学問が進んで、先生のお許しが出たのですか。」

お母さんの言葉を聞いて、孟子は思わずうつむきました。そして、口ごもりながら、小さな声で言いました。

孟子「いいえ。実は先生にはないしょで、やつて来ました。私は、お母さんに会いたくて、会いたくてたまらなくなつたのです。だから、来しました。」



がりました。

お母さん

「えつ、何です

つて。」

孟子

の言葉

を聞いたお母

さんは、驚いて立ち上

⑦ 突然、お母さんははた織り機の近くにあった糸切り用の小刀を手に取ると、はた織り機の美しい布を切り裂きました。驚いた孟子は、止めようとして駆け寄りました。

孟子「お母さん、何ということな



「いたい」というだけの理由で、先生のお許しもなく帰ってきたのですよ。」

お母さんの言葉を聞いた孟子は、自分がしたこと

のあやまちに、よく気づきました。

孟子「お母さん分かりました。私は、自分の学問を仕上げる

ことが、どんなに大切かが、よく分かりました。今すぐ学問所に戻ります。」

このことがあってから、孟子は一心に学問に励み、ぐんぐん力を付けました。学問を深めた孟子は、二千三百年以上過ぎた今も、その名を世界中に知られるような、立派な学者になりました。（おしまい）

制作・発行 藤樹紙芝居制作委員会
脚本・挿絵 高島藤樹会教材委員会
制作委員 足立清勝・飯田典子・

石黒紀代子・北川暢子・清川貞治・高谷美智子・山本義雄（五十音順）

藤樹記念館通信 ⑨

藤樹ゆかりの地

館長 富永 雄教

昨年の十月に、中江家ゆかりの地である岐阜市の黒野城跡と関係史跡および中江藤樹の影響を受けた儒学者佐藤一斎にかかわる恵那市内の資料館や史跡等を見学して、記念館職員の研究を深めました。

黒野城跡およびその城下町周辺の史跡の研修においては、地元「黒野城と加藤貞泰公研究会」の方々に案内や説明をいただきました。見学後は史跡内の研修室で中江藤樹の祖父の住居跡や黒野城と加藤家の歴史、研究会の取組内容について、多くの資料をもとに丁寧に説明していただき、中江家ゆかりの地の歴史や現状について詳しく学ぶことができました。

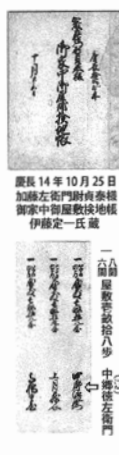
また、今回の研修に合わせて、当地の研究会により、「近江の聖人中江藤樹を育てた祖父中江徳左衛門吉長の屋敷跡」の説明用の案内板を当時の場所に設置され、研究会の皆さんの熱心な取組と中江家や藤樹先生に対する温か



「黒野城と加藤貞泰公研究会作成の看板」(令和元年10月7日作成)

近江の聖人中江藤樹を育てた祖父 中江徳左衛門吉長の屋敷跡

江戸時代初期の儒学者で日本陽明学の祖といわれる中江藤樹(近江国高島郡小川村生まれ・現滋賀県高島市)の祖父、中江徳左衛門吉長の屋敷がこの付近にありました。
吉長は加藤光泰が高島の大溝城主・万石のとき光泰に仕官し、のちに黒野城主加藤貞泰に仕えていました。
慶長十五年(1610)貞泰が米子・鳥取県へ国替えになり吉長もお供しました。元和二年(1616)吉長(五〇五)は、小川村から九歳の藤樹を養子にして米子に行き、翌年貞泰の国替えで大洲へ移りました。
貞泰は学問への理解も高く、藤樹は吉長の元で学び、後世に近江の聖人と言われるほどの偉大な人物になりました。
吉長が黒野城下に住んでいた屋敷は、慶長十四年(1609)の検地帳によると、八間(約15m)×六間(約11m)、面積が一畝十八歩・四八坪・158㎡でありました。
黒野城下家屋敷地図(明治28年写し)によるとこの附近のどこかに屋敷があったようです。(屋敷は現存していません)



い心遣いに変え感動しました。

中江藤樹の祖父「中江徳左衛門」

は、大溝城主の加藤光泰に仕え、城主に従って、大垣城、佐和山城、甲斐国へと移り、光泰の死後は光泰の子加藤貞泰と共に黒野城へ移り、その後十六年間という長い期間、上の看板の図面に示された武家屋敷に住んでいたと言われています。

上の案内板には、当時の黒野城下家屋敷図と検地帳の写しが添えられ、かつて黒野城下に中江家が存在していたということを強く感じる事ができました。



佐藤 一斎 像
(岩村歴史資料館)

黒野での研修後、岐阜県の南東部に位置する恵那市へと向かいました。恵那市の岩村歴史資料館や岩村城跡、城下町等の研修においては、地元の「佐藤一斎顕彰会」の方々に案内や説明をいただき、佐藤一斎の生涯や功績、顕彰活動にかかわる恵那市の現状や今後の取組など多くのことを学ぶことができました。

これらの研修の成果については、今年三月から開催する中江藤樹記念館の小企画展、および今後の運営等にいかしていきます。

賛助会員一覧

新規賛助会員のご紹介

◎ 大津公証人会 白髭博文

(京都市左京区修学院中林町)

◎ 株式会社 澤村

(高島市勝野)

ご協力ありがとうございます。

◎ ウェストレイクホテル可以登楼

◎ 株式会社 大山建設

◎ 川島酒造 株式会社

◎ 株式会社 Grow-S

◎ 株式会社 桑原組

◎ 有限会社 宏和商事

◎ 税理士法人 小畑会計事務所

◎ 有限会社 白浜荘

◎ 社会福祉法人 新旭みのり会

◎ ソエダ 株式会社

◎ 田中マネジメント事務所

◎ 株式会社 TADCO ポレイション

◎ 鉄屋商事 株式会社

◎ 寺子屋まなごし 童心塾

◎ 株式会社 戸井薬局

◎ とも栄 藤樹街道本店

◎ 中村印刷 株式会社

◎ 株式会社 中村測量設計

◎ ニッケイ工業 株式会社

◎ 有限会社 馬場塗装

◎ 保木機料 株式会社

◎ 有限会社 綿庄食品店

(五十音順)

お詫びと訂正

前号での新規賛助会員紹介で、「株式会社 Crows」は、「株式会社 Grow-S」の誤りでした。

お詫びして訂正いたします。